

リサイクル最適解提案

世界の市場で評価されている最先端の機器を組み合わせたリサイクルプラントを提供するリョーシン(富山市)。
高野治会長は、リサイクル業界が直面する深刻な人手不足に対応するため、AI(人工知能)を活用した選別装置の導入など、顧客企業が「人に依存しない経営」を加速できるように、提案力を磨き続けている。(聞き手 加藤弘之)



史です。廃プラスチックを資源に戻すのはもちろん、燃料として活用するプラント、廃棄物由来の燃料を作るプラントなどを手がけ、売り上げを伸ばしてきました」

「強みは、世界各国で確かな実績を持つメーカー、ブランドの製品を、独自のネットワークで扱うことができることです」

「リサイクルプラントは、様々な機械を組み合わせた仕様になりますが、それぞれの分野で最も優れた機器をよりすぐり、組み合わせることです」

「最適解」を提案できます」

「社員を海外メーカーに派遣して勉強してきてもらっているの、自社でメンテナンスサービスを実施できます。故障にも即時対応しています」

「顧客企業に「人に依存しない経営」「人に依存しないリサイクルプラント」を提案

「リサイクルを進めるためには破碎機や選別装置が必要になるのですが、会社を設立した頃、1時間に10トンとか、20トンとか処理できる大型の装置は日本には、なかなかありませんでした」



今後の展望を話す高野会長(富山市婦中町地角で)＝細野登撮影

1951年、石川県小松市生まれ。金沢工業大卒。2001年にリョーシンが設立された際、社長に就任。24年11月から現職。富山セントラルライオンズクラブ理事でもある。

リョーシン(富山市) 高野治 会長 73

する理由は何？

「リサイクル企業の多くは人員不足という深刻な問題を抱えています。リサイクルにはゴミを選別する工程が必要なのですが、働く人はみな、そこには携わりたくない。日本人だけでなく、外国人も。誰もやりたがらない仕事なのですが、リサイクルにはどうしても必要な仕事です」

「そこで、ゴミを投入したら、機械が選別をやってくれるようにする、自動化を図って人の手に頼らないようにするプラントづくりが求められています。AIを使った選別ロボットもその一つです。最先端技術を搭載するリサイクルプラントは「人に依存しない経営」を大きく加速させます」

「私たちは「継続可能な高度循環型社会をつくる」というミッションを自らの事業の根幹に据えています。世界各国のパートナー企業から入手した最新情報を駆使して、企業の将来、社会の未来を見据えたソリューションを提案していきます」

「今後のリサイクル市場をどう見ていますか？」

「プラスチックを中心にしたものは、マテリアル化、原料に戻す分野がもう少し成長すると思います。燃料化、サマル化は今の状態が続いていくでしょう」

「建築材料として広く使われている石膏ボードは、解体時期を迎える建物の増加で、

ASEANごみ問題注力

タイから市場確立にらむ

2024年11月の新社屋の落成に合わせて、社長職を息子の晃氏に委ねた。交代にあたっては、「主な業務は社長に全て判断させて、やらせる」と決意した。徹底的に任せた結果、「良くなる、悪くなる、それも経験。そうした経験は早い方がいい」との考えからだ。

自身は、海洋プラスチックごみの問題が深刻なASEAN(東南アジア諸国連合)におけるリサイクル市場の確立に向けた事業に注力するつもりだ。

ASEAN市場攻略の第一歩と位置づけているのがタイでの事業だ。19年に設立したリョーシンタイランドは、発足してすぐに新型コロナウイルスの猛威に直撃されたが、

ASEANの人口は約7億人。「この地域のリサイクルは、必ず、日本のようなビッグビジネスになるはず」と、未来を見据えている。



2024年9月に新社屋が完成(落成式は同11月)したことに伴い、本社一写真＝を富山市婦中町地角581に移転した。新社屋からは、雄大な立山連峰を間近に望むことができる。

新社屋プラント隣接

国内外の取引先を迎えるため、災害時には地域の避難者を受け入れることもできる大会議室などを備えている。隣接するプラントでは、取引先が破碎テストや選別テストを繰り返すことができ、世界中から厳選した機器の性能について十分に納得してもらった上で、商談を進める場にもなっている。

リョーシン 世界10か国・20社の環境機器メーカーの輸入代理店を務めるリサイクルプラントメーカー。三菱商事の連結会社だった菱神産業の環境事業部が発展的に分離・独立する形で2001年に設立された。